

品川支部

平成29年8月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
TEL 3442-7075

8月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

八月六日バーベキューパーティ 城南ブロック青年会主催

いつも、大井ふ頭なぎさの森公園で城南ブロック(品川・目黒・荏原・大田・大田調布)五支部青年会が集まり、ひのきしんの後バーベキューパーティを行っていますが、今回はもっと大勢の方に声を掛け、五反田駅から歩いて4分の日本橋大教会をお借りして夏のひと時、大いに楽しみましょうと企画されました。小学生の方までは参加費用が無料で、お楽しみゲームも用意ありどなたでも誘い合ってお越し下さいね。



バーベキューは十一時から

十時集合：：ひのきしん・準備等



☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

八月九日(水)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん

鶴平組ですが今回は教区休みで中止です

・神名流し

毎月一日に行われていますが、ごどもおちば
帰り期間中で今月は有りません

・在宅センターひのきしん

八月二十九日(火)午前十時〜

・支部例会

八月三十日は豊英分教会での例会です
七年前に新しい感覚で建て直された教会
ですので、一度見学がてら、どなたでも
参加頂ければとお待ちしております

◇青年会主催

八月六日城南ブロック総会十時〜一時半)
バーベキューパーティ 日本橋大教会会場
どなたでも参加下さい(五百円会費)

☆教務支庁からのお知らせ

・学生会、好評夏の勉強会

八月七日十時から十五時。小学生、中学生
夏休み宿題を含む、勉強会です。とても役
に立ちます、遠慮なく参加して下さい。

・青年会、献血ひのきしん

八月一日〜九月三十日まで

九州北部豪雨について

福岡、大分等、九州地方に大きな被害をもたらした豪雨では、二か所の教会で床下浸水の報告がありました。又信者宅では大きな被害も出ているようであり、福岡教区の災害救援ひのきしん隊は直後の七月十一日から、また大分教区では同十五日から現地に入り活動をしております。本部隊は、子どもおちば帰り終了後五日から、現地入りする予定ですが、東京教区への依頼は、まだ無いそうです。一日でも早い復興を願い、出来る協力を支部でもさせて頂きたいと思っております。

婦人会だより

支部婦人会では、十年ぶりに九月十日「お話の会」を行います。講師は、現在品川支部長の豊英分教会 栗原 薫先生で、日本航空にパイロットで入社、その後アップルコンピュータの営業部長等を経て会長になられた異色の先生で、お道も違った観点でのお話を聞くことが出来ると思います。会場は桜京分教会で、十時半から。お話終了後、昼食をご用意頂いておりますので、ご婦人に限らずお越し下さい。

| 拠点教会 | 6日号 | 13日号 | 20日号 休刊 | 27日号 |
|------|-----|------|------------|------|
| 日本橋 | 直送 | 直送 | 27日号と合併 | 直送 |
| 本 荏 | 直送 | 直送 | | 直送 |
| 都 南 | 直送 | 直送 | | 直送 |
| 三ツ木 | 直送 | 直送 | | 直送 |
| 水豊田 | 直送 | 直送 | | 直送 |

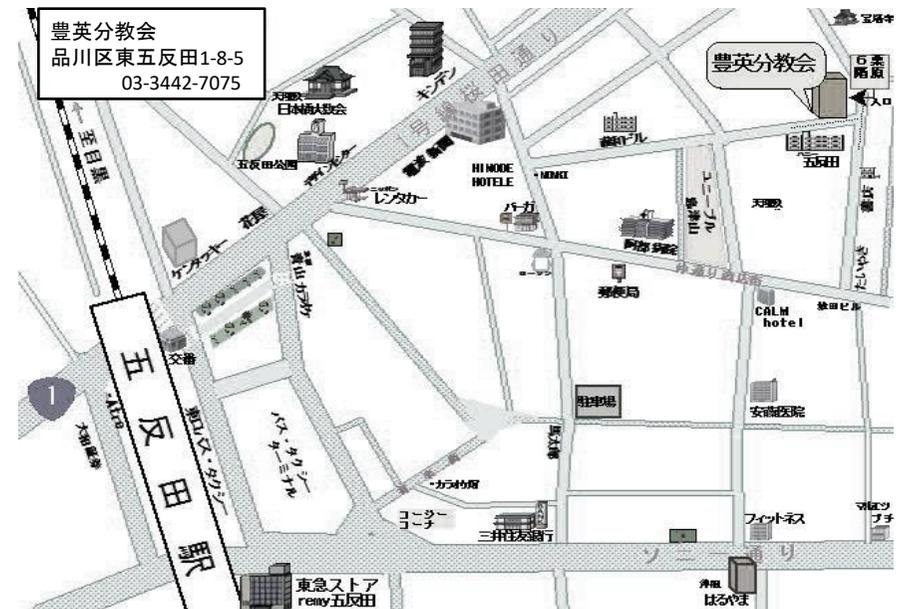
時報手配り八月は
手配りは有りません

品川支部例会

平成29年8月30日 (水) 11時開始

場所 豊英分教会

内容 座りづとめ よろづよ八首 八下目 東京教区、支部連絡事項 当該栗原教会長挨拶 昼食の用意頂いてます *各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



教会紹介

錦平分教会元へ日



錦平分教会の創設者である朝居ますの入信は、明治四十五年四月、常磐津式松こと、長沢三蔵師匠の夫人に手引かれて錦江支教会に参拝し、錦江初代会長から教理を聞き感銘を受けたことによる。

芸者であったますは、その後間もなく、俳優木下吉之助とその母ひさを手引き、さらに吉之助が芸能界・花柳界へ道を伝えた。また、大正八年一月に手引いた佐藤ハナにより錦住支講社が結集された。

大正十五年三月一日、ますは錦里分講社を結集し、同年十一月三日におさづけの理を拝戴した。当時は、王子製紙をはじめ十数社の社長・重役を務める大川平三郎と内縁関係にあった。

ますの信仰の影響を受け、平三郎も次第に信仰を求めようになり、錦江支教会に日参を始めた。そして、昭和五年六月の錦江分教会昇格報告祭の折には、錦江初代会長にお喜びいただきたいと料理人を呼び、万端に粹を集めた料理を作らせた。更に、同年十二月の錦江分教会隣家買収の際には、その代金を全額お供えするなど、金銭面で大いに尽くした。

一方ます自身も、昭和四年二月の麹町中教会昇格報告祭には、錦江初代会長が引き受けた金屏風をお供えするなどして尽くし、昭和九年六月六日には錦江分教会信徒総代に任命された。

昭和二十四年、ますは身上をいただいたことから教会設立の命を受け、早速その準備に取り掛かった。しかし、まずは教導職がなかったため、大教会から担任教会長を派遣することとなり、蒔田正一が任命された。

設立地は、東京都品川区大井山中町四一八四番地で、木造瓦葺平屋建一棟建坪八坪、宅地三十四坪五合を購入、八坪の建物を増築することとして、教会設立願いを提出し、同年六月二十六日に設立の御許しいただき、同年八月九日に鎮座祭、翌十日に報告祭を執行了た。

初代会長蒔田正一は、明治四十五年二月二十五日、蒔田銀平・トラの三男として静岡県志太郡大富村に生まれた。銀平は長男、唯一の身上から、錦志宣教所信徒の曾根きくに手引かれて入信し、大正十四年九月に志光支講社を結集した。正一は、昭和九年に天理教校別科を卒業、その後すぐに錦江分教会に住み込み、昭和十一年九月には詰所主任を拝命し、その後出征・復員を経て、錦平分教会長に就任した。

昭和三十二年、正一は田辺サト子と結婚した。サト子は、昭和二十九年六月に修養科を

終了し、昭和三十二年二月十五日に天理教教徒を拝命した。

当時錦江大教会は神殿建築の最中であつたので、正一は会計・教務に携わり多忙であつた。又、自らの因縁の自覚から、大教会常務となつていいたため、結婚した後は、錦平分教会の用務や布教は、サト子を中心となつて行うこととなつた。この後、サト子は信者のいない教会で、ほとんど収入もない中、子供を育てながら、田辺家の兄弟たちの力を借りて、細々とではあるが、今日まで教会の理をつないで来た。

現在当教会の現状は、月次祭を親族達が集まってなんとか行っている様な状況だが、今後も教会名称の理は繋いでいきたいと考えている。

